



Lis Blanc

(リス・ブラン)——フランス語で「白百合」

No. 71

学報リス・ブラン(白百合)

発行/仙台白百合女子大学 〒981-3107 仙台市泉区本町6番1号
TEL 022-372-3254 URL <http://sendai-shirayuri.ac.jp>
編集/大学広報室

2016.12.9
(転用・転載を禁じます)

本号の主な内容

- 01 巻頭言
- 02 留学体験・留学生紹介
- 03 海外現地実習・保育実習・
臨地実習報告
- 04 ユニークな研究紹介・
教員の表彰
- 05 ボランティアレポート
- 06・07 創立50周年記念行事報告
- 08・09 各種イベント報告
- 10 私の好きな授業
学修支援センターより・お知らせ
- 11 財務報告・寄付金のご報告
- 12 学生募集要項・編集後記



私の手で、私の足で、私の声で、私の心で

カトリック研究所
所長 加藤 美紀

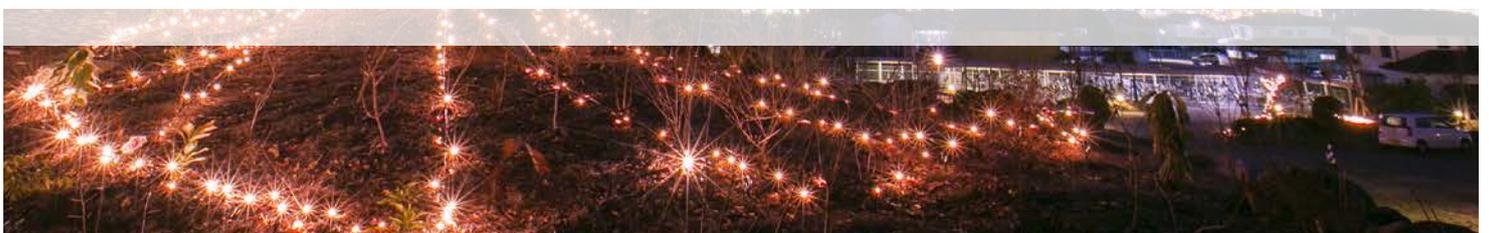
「ご存じのように、マザー・テレサは「神の慈しみ」を体

今年、カトリック教会は「いつくしみの特別聖年」を祝いました。教皇フランシスコはローマの四大バジリカの「聖なる扉」を開き、世界各地の巡礼聖堂も含めて、聖年の扉をくぐると神の赦しと特別なお恵みにあずかることができると宣言しました。その目的は、裁きの神ではなく、愛の神に私達の目を向けることにありました。本来二十五年前に祝う聖年が前回から数えて十六年目に訪れるという意外性も、神の慈しみの思いがけなさを印象づけました。

特別聖年の喜びに沸きかえるバチカンのお膝元、ローマに総本部をもつ我が修道会では、この秋に霊的刷新の研修を企画し、私は四十日間二十カ国四十五人のスール達と一緒に参加して参りました。研修のスタートでいきなり迎えたハイライトは、マザー・テレサの列聖式です。会場のサン・ピエトロ広場は世界各国の国旗がはためき、肌の色も話す言葉も異なる十二万人もの大群集で埋め尽くされました。もしかしたら宗教も異なるかもしれない世界中の人々が同じ心でマザー・テレサを称え、神様に感謝している場に居合わせて、天国とはこのようなどころではないかと思えるほどでした。

現した聖女です。彼女の生き方を現すこんな祈りがあります。「主よ、今日一日、私の手で、私の足で、私の声で、私の心で、苦しむ人の友となれるよう、私をお使いください」。神の慈しみは、人種・国籍・文化・言語はもろんのこと、宗教の枠さえ超えて世界の隅々まであまねく及び、一人ひとりを含みますが、それは人間の手を通して、です。マザーはそのことを私達に教えてくれたのではないのでしょうか。

私達が毎年御祝いするクリスマスは、神の子であるイエス様が人間の姿でこの世に誕生したことを記念しますが、神が人となったのは何故か。それは神の慈しみを体現するために他なりません。神がどんなに一人ひとりを慈しんでいるか、神の愛を現すためだけにわざわざ苦勞の多いこの世で生活されたイエス様。十字架受けたイエス様。でも全てを赦して溢れるお恵みをたずさえて復活し、常に私達の傍らに居てくださるイエス様。このイエス様の慈しみを私の手で、私の足で、私の声で、私の心で人々と分かち合うことができるようにと願わずにはいられません。特別聖年を祝った年に迎えるクリスマス、私達の魂が神様の慈しみで豊かに満たされますようにお祈りいたしております。



韓国へ留学して

グローバル・スタディーズ学科三年 木立万祐子

私は去年の八月から今年の六月まで、韓国・ソウルの誠信女子大学校へ留学しておりました。
誠信では、韓国語と韓国の文化や社会を主に学びました。また、「日韓関係論」という専攻科目も受講し、元々興味があった日韓関係における政治や領土問題について、韓国の学生と共に考えました。貴重な経験ができて良かったです。



当初、韓国語は全く出来なかったため、言われていることが理解出来ず、とても大変でした。それでも友達や先生方に助けてもらいながら、楽しく韓国語に慣れて行き、留学して半年が過ぎた頃には大分実力がついてきたこともあり、現地での生活はより充実したものになりました。
留学生生活で一番の財産となるのは、やはり人との繋がりがではないでしょうか。この一年間たくさんの人と出会い、韓国の旧正月「秋夕」と帰国直前には、地方にある友達の実家へ泊まりに行くまでになりました。友達のご両親は私を娘のように可愛がってくれ、韓国にも家族が出来たようです。韓国の学校の友達や先生方、行く度に声を掛けてくださる店員さん、同じ日本から来た留学生など、ソウルで出会った人たちは皆、今でもとても大切な存在です。
留学した一年間は、私の人生で一番中身の濃い年になりました。たくさんの人に感謝したいです。今や韓国という国の文化も人々も、私の生活に欠かせない大切なものになりました。

グローバル・スタディーズ現地実習に参加して

グローバル・スタディーズ学科三年 鈴木玲奈

今回のグローバル・スタディーズ現地実習で私は、アメリカの語学学校に通いながら、様々な観光地を訪れました。そして、普段できないような素晴らしい経験をし、思い出を作ることができました。
私は、今まで、日本人以外の人と話す機会をもったことがほとんどなかったため、語学学校で様々な国の人々と接することができたのは、とても貴重な体験でした。同じクラスに振り分けられた外国人のクラスメイトが初対面の私に対し、フレンドリーに話しかけてくれてくれました。気軽に声をかけてくれたことがとても嬉しかったです。そのクラスメイトは、うまく英語が話せなくとも、自分の伝えたいことを相手に分かってもらおうと、身振り手振りを駆使し、一所懸命語りかけていました。私もこうした姿勢を見習いたいものだと思います。
今回の現地実習で私たちは、たくさんさんのアメリカの観光地を訪れました。ユニバーサル・スタジオ、ディズニeland、ハリウッド、そして、全米日系人博物館などです。特に、全米日系人博物館では、日系アメリカ人の歴史について学ぶことができました。彼らはアメリカ国籍でありながらも、第二次世界大戦中、収容所生活を余儀なくされていたこと、そして彼らの中には、戦後、そのことに対する国の謝罪・賠償を求めて尽力した人達がいいたことを知ることができました。



滞在中は、ほとんどが寮生活でしたので、友人と一緒に生活することができたのも楽しい思い出となりました。寮にはプールやジムがあり、また、寮の近くにはきれいなビーチがありました。アメリカでの生活は日本と違うところが色々あったので、そのことに不便さを感じることもあり、慣れるのに一苦労でした。それでも、日本

台湾に留学して

グローバル・スタディーズ学科三年 徐博文

私は台湾の静宜大学に一年間留学しました。大学に着いた時は、敷地のあまりの大きさに驚き、校門から女子寮までの道筋を覚えられるのだろうかと心配になりました。この大学は学生数も多く、いろいろな国からたくさんさんの留学生が来ていて、静宜大学の学生も英語を話せる人が多く、私は中国語を学びに来たはずなのに、むしろ英語の重要性に気づかされました。中国語の授業は一人ひとりのレベルに合わせて、中国語センターの先生が決めてくれました。私は上のクラスになりましたが、毎日宿題を出され、毎週小テストがありました。少人数で授業が行われているので、わからないところはすぐ聞けますし、先生もいろいろな例を出して丁寧に教えてくれます。とても分かりやすく、楽しく勉強ができます。ルームメイトはシンガポール人一人、香港人二人で、みんな中国語を話せたので、部屋ではいつも中国語で会話していました。みんな親切で暖かい人ばかりでした。

静宜大学では、留学生をメインとした活動も多く、遊園地でのバーベキュー、ハロウィン・パーティー、フェアウェル・パーティーなどたくさん企画がありました。また、留学生だけではなく、台湾人の学生と交流できる機会もたくさんありました。私は彼女たちと一緒に映画に行ったり、ご飯に行ったりして交流を深めました。
留学生生活は本当にあつという間に過ぎていき、日本で経験できなかったこともたくさんあり、いろいろな人と友達になり、寮生活を含め、毎日が本当に楽しかったです。私は静宜大学に留学すると決めたことを一度も後悔したことなく、正しい選択をしたと思っています。台湾に留学したい方におすすめです！



とは異なる、生活・文化・習慣を体験することができたことはとても良い経験になったと思います。
今回の現地実習で私は、積極的に英語を使って語りかけることはできませんでした。でも、もしもアメリカを訪れる機会があれば、自ら積極的に英語で話しかけてみたいと思います。二週間という短い期間ではありましたが、この現地実習に参加できたことは私にとってかけがえのない思い出であり、素晴らしい財産になったと思います。

『見守る保育』について

人間発達学科三年 工藤ちひろ

私の保育実習先の美咲保育園は、主体性を育てる「見守る保育」という保育方針をもった保育園でした。「見守る」ということは、ただ子ども達の様子を見ることではありませんでした。例えば子ども同士でトラブルが起きた時、保育者はすぐに関わるのではなく、やり取りを見守りながら必要に応じて仲立ち等の援助を行うということです。しかし「見守る」ためには子ども一人ひとりの発達段階を理解し、個々に合った援助が保育者には求められます。

また発達に合わせた環境構成を整えることも子どもの力を発揮し、意欲的に活動することに繋がると実習を通して分かりました。美咲保育園では「異年齢保育」を行っていました。三歳から五歳の子どもが一緒に生活することでお互いを良い意味で刺激し合えます。年下の子は年上の子の行動を見て自分の可能性を広げ、様々な事に挑戦する気持ちを持ち始めるなど、子ども同士の間で育ちが出来るのだと学びました。このような特色をもった保育園で実習をさせて頂き、「保育者のあり方」について改めて考えることができました。



日本文化、美味しい文化

留学生 邵清義



皆さん、こんにちは。邵清義と申します。四月に中国の山西大学から参りました。今年大学四年生で、二十一歳です。専門は法学ですが、趣味は美味しい料理を食べることです。もちろん、日本文化にも非常に興味を持っています。大学二年生の時から日本語を勉強し始め、日本文化をより深く理解したいと考えつつ、昨年日本に留学することを決意しました。
日本に来てから、すでに半年経ちました。この間、日本の名所を旅したり、様々なイベントに参加したりして、多彩な日本文化を体験しました。その中でも一番印象深かったのは、やはり日本の食文化です。留学する前に、「日本のラーメンはおいしいよ」とよく聞かされていました。日本に来て、実際に食べてみると、本当に美味しかったです。中でも、私が一番好きなのは豚骨ラーメンです。細やかな油の滴が一面に浮いていて、豚の骨髄からとった白濁のスープは、一口飲んだだけで絶品でした。
ラーメンだけでなく、仙台名物の牛タン、熱々のたこ焼きのほか、美しい懐石料理も食べました。日本料理を食べる度に、それら一つ一つが心を込めて作られたものだと感じています。盛り付け、色彩、そして食感のどれを取っても、日本流の年季が入った食文化が感じ取れます。もちろん、食べ物以外にも、繊細に、丁寧に扱うのが日本文化の良いところだと思います。
帰国するまであと数ヶ月しかありませんが、その間に、食いしん坊の私と、もっと一緒に日本文化を味わっては頂けないでしょうか。



臨地実習報告

健康栄養学科三年 鐵本彩

私は今年度、小学校と特別養護老人ホームで臨地実習を行いました。実習に臨むにあたっては各施設での給食の実際や栄養士の役割についてよく観察するように心掛けました。

小学校において給食は学びの教材の一つであり、子どもたちは給食を通して正しい食習慣や栄養バランスについて学んでいます。栄養教諭は、旬や調理法などを考慮した献立を作り、子どもたちが将来、自立して食を営むことができるよう指導していることを私は実感しました。給食の時間には栄養教育の実習をさせて頂いたが、とても緊張しましたが、子どもたちがしっかりと話を聞いてくれ、楽しさと責任の重さを味わいました。



また、特別養護老人ホームでは、利用者の方々は、毎日の食事を生きる上での楽しみとしておられました。嗜好調査をさせて頂いたところ、刺身や甘いものが好きだと答える方が多く、実際に触れ合ったからこそ分かることが多々ありました。ただの栄養源としてではなく、楽しんで食事をしてもらうために利用者の方一人ひとりに合った食形態を提供することが何よりも大切であることを学びました。
実習先の管理栄養士の先生方は、皆生き生きとされ、仕事にやりがいを感じているのが伝わってきました。その姿に憧れを抱き、私も先生方のような管理栄養士になりたいと強く感じたので、今後も精いっぱい勉学に励んでいきたいと思っています。

創立50周年記念行事報告

本学は、1966年の「仙台白百合短期大学」創立から、今年で50周年を迎えました。それにともない、昨年度より、以下のとおり創立50周年記念事業を展開してまいりました。

【創立50周年記念講演会】

プレ企画として、シスター渡辺和子先生（ノートルダム清心学園理事長）を講師にお迎えし、創立50周年記念講演「現代の忘れもの」（於・本学講堂）を開催いたしました。2015年7月18日（土）午後には本学講堂で行われたこの講演会では、近県各地からも「置かれた場所で咲きなさい」（幻冬舎刊）他の著書で知られる先生の熱心なファンがたくさん集まり、先生のお人柄が醸し出す穏和な雰囲気を楽しんでおられました。

【記念式典】

2016年7月2日（土）、本学講堂にて「創立50周年記念式典」が挙行されました。記念式典につきましては、新聞等マスコミでの報道、ホームページ等でお知らせしたこともあって、来賓はじめ多数の方々にご参加いただきました。

プログラムは、13：30のオープニングに続き、式井久美子・白百合学園理事長、牛渡淳学長の挨拶に続いて、創立50周年記念感謝ミサが行われました。主司式はカトリック仙台教区長・平賀徹夫司教、共同司式は上智学院理事長・高祖敏明神父様が務められました。創立時以来ご活躍された諸先生方にもご参集いただき、半世紀にわたる営みの、さまざまな苦労や栄光の重みが凝縮された、祈りのひとときでした。

感謝ミサに引き続き、高祖敏明神父様による記念講演が開催されました。「わが国における大学改革とカトリック大学の役割」という演題による講演は、日本におけるカトリック教育の歴史とカトリック教育についての優れて高度な内容のものであったにもかかわらず、会場全体が静穏な雰囲気の中、皆講演の内容に聴き入っておりました。本学におけるカトリック教育への期待の高さを物語っているようでした。

創立記念式典プログラム終了後、立食パーティ形式の茶話会が、学生食堂ステラ・マリスにて催されました。各々が話の華をさかせ、名残惜しさを残しながらの散会でした。



【創立50周年記念講演会（カトリック研究所公開講座）】

暑さが和らいできた9月24日（土）、「創立50周年記念講演会（カトリック研究所公開講座）」が開催されました。上智大学グリーンケア研究所所長の島菌 進先生（東京大学名誉教授）に、「現代人の死生観とスピリチュアリティ」というタイトルでご講演いただきました。既成宗教の枠組みを超えた、現代人が直面するスピリチュアリティの課題についての講演は、カトリック教育とも関連し、次の半世紀の歩みに向かう本学にとっての課題を示唆する内容のものでありました。

【創立50周年記念企画・懸賞論文】

創立記念企画の一つとして、懸賞論文を募集いたしました。「現代社会におけるカトリック教育の使命について」「女子大学として期待される社会貢献について」のいずれかのテーマに基づいた論文を、高校生部門と大学生部門で募集いたしました。結果につきましては、以下のとおりとなりましたことをお知らせし、高校生部門最優秀賞の論文を次の頁に掲載いたします。

高校生部門

- 最優秀賞：
『『思いやり』の力を育てるカトリック教育』
白百合学園高等学校2年 西條 由香
- 優秀賞：
「カトリック教育を通して世界の人々と共生するために」
仙台白百合学園高等学校2年 佐々木 綾音
- 優秀賞：
「道徳教育としてのカトリック教育」
湘南白百合学園高等学校3年 折橋 慧
- 優秀賞：
「待機児童問題に見るカトリック女子大学の在り方」
白百合学園高等学校3年 下田 真央

大学生部門

- 記念賞：
「女子大学の学びが社会において活かされるには」
仙台白百合女子大学人間学部 心理福祉学科4年 浅野 胡桃
- 記念賞：
「女子大学で育てる『専門性』と『女性らしさ』」
仙台白百合女子大学人間学部 心理福祉学科4年 瀬戸口 夏
- 記念賞：
「現代社会におけるカトリック教育の使命について」
仙台白百合女子大学人間学部 人間発達学科3年 三浦 志織
- 記念賞：
「理想の教師像」
仙台白百合女子大学人間学部 人間発達学科2年 大石 梨奈

『『思いやり』の力を育てるカトリック教育』

白百合学園高等学校2年 西條 由香

「優しい人になろう」、このような決心を誰でも一度は抱いたことがあるのではないだろうか。「優しさ」を持つことは人として当然で社会において必要であることは幼い子供でも知っている。しかし私は、「優しさ」は「思いやり」の心があるからこそ、「真の優しさ」になりうるのではないかと思う。現代社会において「思いやり」の欠如した「優しさ」が様々な場面で存在し、それを因子として持つ問題も生じているように感じる。私は、イエスが教え示された「隣人への愛」こそ「真の優しさ」に通じるところがあると思う。カトリック教育において、私たちが聖書に示される価値観を学び、日々生きていく中で積極的に学んだことを行動へと移していくことで、「思いやり」のある、そして「真の優しさ」のある社会の構築の可能性が広がっていくのではないかと考えた。

私はミッシヨンスクールに通っており、これまで五年間に渡り、聖書について学ぶ機会を得てきた。そして近頃、ふと聖書の中の言葉を思い出す機会が二回あった。その一つ目は私の母が高校生であったころの話を知っていたときだ。母が高校生であったとき、母のクラスにおいて、特定の子の物を隠したり、陰湿な陰口を言ったりする、いわゆるいじめがあった。ある女の子一人を中心として何人かの女子たちがグループとなって、ターゲットを決めていた。しかしあるとき、些細なことが原因で、中心となっていた女の子がいじめられるようになってしまった。同じグループであった女子たちに助けを求めたが、自分の立場が悪くなることを恐れて、彼女たちは

その女の子を助けようとはしなかった。立場が逆転した女の子は教室でずっと一人きりでいるようになった。けれどもそんな時、一人でお弁当を食べていた女の子に、一緒に食べようと話しかけた子がいた。それは数ヶ月前までいじめのターゲットにされていた子であった。母はそのとき、「もし私がここでその女の子を助けたら自分の立場が危うくなるのではないだろうか」という恐れから、いじめの側にもいじめられる側にも関与せず、ただ傍観者として何も行動を起こしていなかった自分を情けなく思ったそうだ。この話と重なったのは、「善きサマリア人のたとえ」（ルカによる福音書一〇・二五―三七節）である。このたとえ話の中でサマリア人は、「助けることで自分も追いはぎに襲われるかもしれない」という恐れを捨て、自分が憎んでいたユダヤ人を救ったのだ。まさに立場が逆転し、いじめられるようになった女の子と、かつてその女の子にいじめられていた子との関係だ。自分に辛い思いをさせていた女の子への怒りや憎しみを捨て、手を差し伸べたその子は、相手が今どれだけ苦しんでいるかを「思いやり」、そして行動へと移した。また、聖書の中で怪我をしているユダヤ人を見過ぎした祭司やレビ人は、母を含む傍観者の立場であった人や以前女の子と同じグループであった女子たちに重なった。いじめをしていないから正しいと思うのは、律法を理由として傷つけているユダヤ人に触れようとしなかった祭司たちと同じなのだ。自分の立場やプライドを傷つけることを避けていたために、相手への「思いやり」のある「優しさ」を持つことができなかった。この話において、いじめをせず、ただ傍観していることは「優しさ」であっても、「思いやり」のある「優しさ」ではないのだ。

二つ目は、熊本地震に関する社会問題を知ったときだ。二〇一六年四月十四日、熊本県を震央とする非常に大きな地震が起きた。最大震度は震度七であった。続く四月十六日、またも熊本地震を震央とする最大震度七の地震が発生した。その後も有感地震は続き、千三百回を超えた。東日本大震災に続き未曾有の地震であり、建物被害は大きく、避難者も多い。熊本地震の様子は連日メディアで報道され、大勢の人が被災地に駆けつけてボランティアを行っている。復興を後押しするボランティアの力は大きい。だがその一方で、ボランティアでありながら力仕事など地味な作業は行わず、内輪で盛り上がり、そして、もともと被災者用に用意されていた食料や寝床を、自分たちのためにも要求する「モンスターボランティア」と呼ばれる人々が現れた。彼らは、被災者・被災地に対する「優しさ」からボランティアを志願したのかもしれない。しかし、彼らの行為は援助とは逆行するものでしかない。そこに被災地の状況を知り、被災者の方々のために自分には何ができるかという他者への「思いやり」は存在しない。もし少しでもこの気持ちがあれば、物資や住居のない中で自分本位の要求をしたりはしないはずだ。時として「優しさ」は、その言葉だけが一人歩きして、相手が求めていることとは違う、自己の欲求を満たすためのものになってしまうことがある。この問題を目にしたとき、私が思い出した聖書の言葉は「自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちのことを思いやり、また、自分も体を持って生きていますから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい」（ヘブライ人への手紙一三・三）であった。これはクリスチャンであるゆえに迫害に苦しんでいるヘブライの人々を支える上で発せられた言葉であるが、この熊本地震の被災者と重ね合わせることもできるのではないだろうか。

か。当たり前のようにあった日常を大地震によって一瞬のうちに失い、余震の恐怖におびえながら、水や食料でさえも十分でない環境で送る避難生活はどんなにつらく苦しいものであるか、その苦痛を理解したうえでボランティアという行動に立ち上がることが「真の優しさ」なのだ。相手の身に起きることを、自分の身に起きたかのように想像できる力、すなわち「思いやり」の力が人々にあったならば、「モンスターボランティア」などという言葉は生まれなかっただろう。

このように、聖書に示される価値観は「真の優しさ」とは何であるかを現代に生きる私たちに問いかける。私たちはともすると自分の気持ちを優先しがちであり、相手の立場を想像した上での「思いやり」が欠如していることがある。先に示したような、相手の「優しさ」を、相手に押し付けて満足していることがある。先に示したような、相手の「優しさ」は何も生み出さないどころか、大きな迷惑となって相手を傷つけさせる場合もある。聖書を学び、イエスの教えについて考えるカトリック教育とは、「隣人への愛」について、相手が本当は何を求めている、そして自分はどういう願いに応えていくことができるのか、こういったことを考えることのできる力を育ててくれる大切な場なのである。その力によって生まれる「真の優しさ」、そしてそこから生まれた喜びや感謝の気持ち、人々が自己中心で他人に無関心となってしまう現代において人間らしさの回復をもたらすものと私は考える。

※ここに掲載したものは、応募論文の原稿に一部加筆・修正を施したものである。

大学広報室企画（白百合祭）

仙台白百合短期大学・女子大学 —50年の歴史(資料展示)—

仙台白百合女子大学は、前身の短期大学創立から本年2016年で50周年を迎えました。昨年度に引き続き、短期大学時代を中心とする本学の歴史に関わる史料の展示を、10月22日（土）、23日（日）の白百合祭にて行いました。今回の展示では、短期大学時代の制服・作業着のほか、学生要覧・時間割表といった教務関係の資料や、創学当時の古いパンフレット（学校案内）等も御覧いただけるようにいたしました。また、本学50年の歩みを一望できるように、写真を添えた年表というかたちで皆さまにお示しさせていただきました。展示室では、本企画に加え、フォトコンテストも同時に開催され、非常に多くの方々のご来場下さいました。



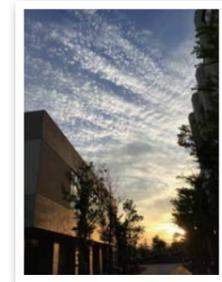
2016年度 フォトコンテスト 受賞作品



聖アガタ賞
「雨上がってテンション上がる」
浅野真優



聖アグネス賞
「ひなたぼっこかな?いいなあ〜」
須藤清美



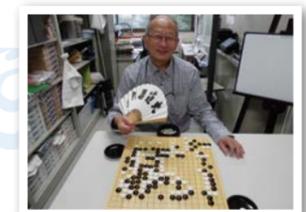
聖アンナ賞（ハリウ賞）
「夕日とろうこ雲」
加藤沙也佳



聖ヴェロニカ賞（DNP賞）
「秋の空」
鈴木真帆



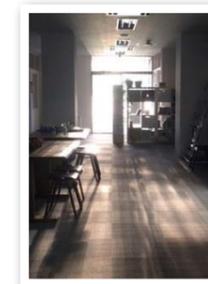
聖カタリナ賞（ハリウ賞）
1日のはじまり②
金子美慧



聖マリア賞（ハリウ賞）
「鈴木先生の勝利」
三上瑞歩



聖オリガ賞
「夜景」
上村陽菜



聖ジュリア賞
「後光モノクローム」
山口普子



聖ジュリア賞
「明日へ」
及川美里



聖ジュリア賞
「望遠」
金森優

泉マルシェ報告

9月17日（土）、泉中央駅前ペDESTリアンデッキにおいて泉マルシェが開催されました。

フランスの市場（マルシェ）をイメージしたイベントで、毎年雑貨、食べ物などの店がたくさん並びます。2011年に震災復興支援市としてスタートした「泉マルシェ」は今年で6年目を迎えました。

本学はこのイベントに毎年参加して、より多くの方に「白百合」を知っていただくために広報活動を行っています。そして、今年は本学のチアリーダークラブ「VELVETS★」がパフォーマンスの部で参加しました。6人が軽快な音楽によって、はじけるような笑顔で演技していました。



インカレ通信

大学生協みやぎインターカレッジコープは仙台白百合女子大学において、以下のような厚生施設の運営を担当いたしてまいりました。

食堂や店舗の通常営業に加え、毎年4月には、たくさんの1年生が参加する新入生歓迎会の開催、オープンキャンパス時の学生生活紹介ブースの設置、AO・推薦入学生のための一人暮らし相談会（12月）の開催などです。

その他の企画として、今年も仙台白百合女子大学の学生の皆さんを対象に「自分で創るテーマのある旅」を募集しています。大学生協はこれからも仙台白百合女子大学の魅力あるキャンパスづくりに貢献していきたいと考えております。

（大学生協みやぎインカレ 青柳 範明）



本田町地域清掃ボランティアについて

10月21日（金）11:00から学生会の呼びかけにより、本田町地域清掃ボランティアを行いました。7月に引き続き2回目のボランティアとなり、学生115名と教員5名が参加しました。いつもお世話になっている町内会の方々へのお礼と、翌22日（土）・23日（日）の白百合祭に来てくださるお客様に気持ちよくイベントを楽しんでほしいとの思いから実施されました。

参加した学生からは「自分たちで掃除した道は気持ちがよかった」「ゴミを捨てないことも大切だと思った」「他学科の友達ができ参加してよかった」などの感想がありました。

地域清掃ボランティアとその精神が、学生たちによって引き継がれ、来年度も継続して地域清掃を行って欲しいと思っています。
（学生課長 泉田 礼子）



第2回 ANA エアライン 学内講座が開かれる

仙台白百合女子大学は、2015年にANAビジネスソリューション（株）と教育連携協定を結び、学生はエアライン講座を学内にて受けられるようになりました。2回目となる今年度は8月23日（火）から25日（木）にかけて12コマの基礎授業、26日（金）にはキャビン・アテンダント希望者のために4コマ分の授業がありました（グラウンド・スタッフ希望者向けの授業は年度末に開講予定）。その後、福島空港で実務研修が行われ、台風の影響を受けながらも2グループが濃密な一泊二日を体験できました。ANAの制服を着用し、普段立ち入れない箇所を見させてもらい、さらにカウンター業務や放送案内を体験するといった貴重な学びの機会を得ることができました。今後、エアライン分野で活躍する人材が受講者の中から出てくることが期待されます。



私が好きな授業について

心理福祉学科二年 高瀬 悠加
 こんにちは、心理福祉学科二年心理コースに所属している高瀬悠加です。心理コースの必修科目である「心理学基礎実験」と、選択科目の「教育心理学」の授業をご紹介します。
 心理学基礎実験は、卒論を書くために必要な心理学の研究手法を実験を通して学ぶ授業です。具体的には、質問紙法という調査方法を用いて、学生に実際に調査をし、各グループが決めた題材に関するイメージの検討を行う「SD法」の実験、連続して行う学習と間隔を開けて行う学習では、どちらが効率の良い学習を獲得できるかを検討する「鏡映描写」の実験などを行いました。どの実験も、私たちがあまり意識せずに行っている行動を対象にしているため、とても興味深い内容でした。また、今回は何人かのグループになって実験を行いました。卒論は一人で実験、分析をし、まとめるため、卒論に向けての意欲向上にもつながりました。教育心理学は、学校教育の場でのようにしたら効率の良い学習を獲得できるかの検討や、

様々な問題やトラブルに対処する際に有効な心理学的観点を養う授業です。学習、認知、発達、動機づけ、パーソナリティ、家族関係、教育相談、障害といった、幅広い分野で教育に関する心理的配慮について学べ、とても勉強になりました。また、毎回の授業で復習として「自分に引きつけて」考える課題が出ていたため、自分の周りでも心理学が大いに活用されているという事を再確認できました。今後も将来の目標にむけて心理学を頑張って学んで行くつもりです。

学修支援センターより

今期からは、様々な観点から、基礎学力の向上をめざす取り組みに力を入れております。夏休み前には、新たな取り組みとして、キャリア支援課と連携し、三年生を対象とした社会人基礎力講座を実施いたしました。就職活動を目前に控えた三年生にとって、自分自身に不足しているものを自覚してもらおうよい機会となりました。
 また、各学科の教員の得意分野を活かし、教員採用試験対策として「白百合教師塾」、健康栄養学科教員による「ワールドクッキング」、GS学科による「英語勉強会」、心理福祉学科の公務員試験対策としての「自主ゼミ」など、さまざまな企画を実施しています。
 開設三年目となる当センターでは、お昼時間には、お弁当などを食べに来る学生でにぎわうようになりました。人間発達学科の佐々木先生がデザインした窓側の装飾のおかげで、建物自体が明るくなり、遠くからでも目立つようになったことで、学生のみなさんが足を運びやすくなったものと思います。
 今後は、資料収集にも重点を置き、図書館と共同でE-bookの導入も検討中です。また、センターのもう一つの柱でもあるアクティブ・ラーニングを取り入れた様々な活動も展開していきたいと考えています。(高橋(早)・山口)



白百合教師塾



白百合教師塾

仙台白百合女子大学 2016年度クリスマスの集い



クリスマスを迎え、世界の人々とともに、友人とともに、世界の人々の幸福のために、友人の幸福のために一緒にお祈りしましょう。
 『初めに言があった。言は神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている』
 (ヨハネによる福音書の冒頭)

日時 2016年12月16日(金) 10:40~16:00

会場 本学講堂
 当日のプログラム

10:40~12:00

クリスマス・ミサ
 司式: ラトゥール神父(ドミニコ会司祭)

13:00~14:00

クリスマス・コンサート
 第1部 女声合唱団 木声会 赤尾裕子氏(指揮)
 第2部 高橋絵里氏(ソプラノ) 掛田瑠子氏(ピアノ伴奏)

14:15~16:00

学生会クリスマス会(本学学生のみ)

参加費無料。クリスマス・ミサ&コンサートに参加ご希望の方は、下記までお申し込みください。(本学学生は申し込み不要)

お申し込み・お問い合わせ先:
 仙台白百合女子大学 大学広報室
 〒981-3107 仙台市泉区本町6番1号
 TEL: 022-374-4475 (直通)
 FAX: 022-374-5082
 E-mail: koho@sendai-shirayuri.ac.jp

Report 2015(平成27年)度 財務報告

financial report

資金収支計算書			
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで (単位: 円)			
収入の部	科 目	予 算	決 算
学生生徒等納付金収入		1,247,822,000	1,247,877,920
手数料収入		19,300,000	14,465,800
寄付金収入		12,800,000	11,850,000
国庫補助金収入		210,500,000	209,374,000
地方公共団体補助金収入		209,980,000	207,982,000
その他の補助金収入		1,500,000	1,392,000
雑収入		0	0
借入金等収入		6,000,000	9,107,548
受取利息・配当金収入		650,000	557,596
雑収入		25,118,000	23,382,207
前年度繰入金収入		0	0
前年度繰入金収入		177,665,000	170,225,000
その他の収入		66,825,553	68,475,533
雑収入		232,250,000	236,132,177
前年度繰入金収入		0	0
収入の部合計		1,861,931,375	1,848,724,249
支出の部			
人件費支出		964,800,000	964,689,302
教育研究経費支出		250,600,000	250,792,441
管理経費支出		102,200,000	92,888,262
借入金等利息支出		23,993,940	23,993,940
借入金等利息支出		137,760,000	137,760,000
施設関係支出		15,000,000	11,653,200
設備関係支出		61,500,000	60,601,859
資産運用支出		0	0
雑支出		68,471,169	69,995,468
その他の支出		(9,600,000)	400,000
雑支出		400,000	400,000
前年度繰入金収入		△ 35,216,800	△ 34,655,877
前年度繰入金収入		242,422,858	241,422,858
支出の部合計		1,861,931,375	1,848,724,249

貸借対照表			
平成28年3月31日 (単位: 円)			
資産の部	科 目	本年度末	前年度末
固定資産		4,770,409,103	4,338,119,899
有形固定資産		3,949,237,533	4,116,888,329
土地		41,666,199	41,666,199
建物		3,177,699,399	3,325,332,055
構築物		75,351,245	100,974,405
教育研究用機器備品		249,275,900	246,988,823
管理用機器備品		7,893,248	8,454,226
図書		395,499,593	391,003,344
雑品		1,851,959	2,469,277
特定資産		820,000,000	820,000,000
減価償却引当特定資産		400,000,000	400,000,000
退職給付引当特定資産		420,000,000	420,000,000
その他の引当特定資産		0	0
その他の固定資産		1,171,570	1,231,570
著作権		0	0
その他の固定資産		1,171,570	1,231,570
流動資産		311,119,893	425,004,947
現金預金		251,005,634	327,540,822
未収入金		37,522,177	72,781,563
その他の流動資産		22,990,992	24,732,572
資産の部合計		5,081,927,906	5,383,174,846
負債の部			
固定負債		1,686,523,492	1,859,499,402
長期借入金		924,840,000	1,027,600,000
退職給付引当金		411,883,492	426,899,402
その他の固定負債		350,000,000	405,000,000
流動負債		383,874,091	449,200,302
短期借入金		102,760,000	102,760,000
前払金		170,225,000	200,250,000
その他の流動負債		110,889,091	146,150,302
負債の部合計		2,070,397,583	2,308,699,704
純資産の部			
基本金		6,993,980,271	6,829,730,183
第1号基本金		6,902,980,271	6,738,730,183
第2号基本金		0	0
第3号基本金		0	0
第4号基本金		91,000,000	91,000,000
繰越収支差額		△ 3,982,449,948	△ 3,775,255,041
当年度繰越収支差額		△ 3,982,449,948	△ 3,775,255,041
繰越収支差額		2,911,530,323	2,911,530,323
負債及び純資産の部合計		5,081,927,906	5,383,174,846

事業活動収支計算書			
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで (単位: 円)			
事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算
学生生徒等納付金		1,247,822,000	1,247,877,920
手数料		19,300,000	14,465,800
寄付金		12,800,000	11,850,000
国庫等補助金		195,950,000	195,251,000
国庫補助金収入		194,450,000	193,859,000
地方公共団体補助金収入		1,500,000	1,392,000
その他の補助金収入		0	0
雑収入		25,118,000	23,382,207
前年度繰入金収入		1,506,990,000	1,501,934,475
事業活動収入合計		2,993,940	2,993,940
事業活動支出の部			
教育活動外収入		650,000	557,596
借入金等利息		23,993,940	23,993,940
その他の教育外活動収入		0	0
教育活動外収入合計		23,993,940	23,993,940
教育活動外支出		23,343,940	23,436,344
経常収支差額		△ 70,843,940	△ 61,780,347
特別収入の部			
資産売却差額		0	0
その他の特別収入		14,550,000	18,835,528
施設整備寄付金		0	2,000,000
現物寄付		0	2,712,528
施設設備補助金		14,550,000	14,123,000
特別収入合計		14,550,000	18,835,528
特別支出の部			
特別支出計		0	0
特別収支差額		14,550,000	18,835,528
(予備費)		2,980,000	2,980,000
基本金組入前当年度収支差額		△ 59,273,940	△ 42,944,819
基本金組入額合計		△ 163,580,000	△ 164,250,088
当年度収支差額		△ 222,853,940	△ 207,194,907
前年度繰越収支差額		△ 3,775,255,041	△ 3,775,255,041
基本金取崩額		0	0
前年度繰越収支差額		△ 3,998,108,981	△ 3,982,449,948
(参考)			
事業活動収入計		1,522,190,000	1,521,327,599
事業活動支出計		1,581,463,940	1,564,272,418

寄付金のご報告

2009(平成21)年から始まりました本学の寄付金募集は、趣意をご理解くださる皆様方によりたくさんのご寄付をいただきました。一同、心より御礼申し上げます。

第1・2期募集を経て、昨年7月より第3期募集を開始いたしました。皆様方より賜りました寄付金は、震災後の校舎修復費用、および被災学生の授業料免除原資の一部等に充当させていただいております。

ここに、2015(平成27)年10月から2016(平成28)年9月までの状況をご報告いたします。今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

【寄付者ご芳名】(個人・団体順 敬称略)

桑嶋 重信、佐藤 岳、佐藤 満、信太 裕憲、高橋 昌隆、千田 美夕紀、千葉 隆政、長谷川 香子、林崎 広昭、松尾 孝綱、松本 宣郎、学校法人湘南白百合学園タブリエ会 (以上11名、1団体)

創立50周年記念寄付金募集事業のご報告

本学は今年で創立50周年を迎えました。節目にあたり、記念事業として、施設整備等を行うことを目的に昨年8月より寄付金の募集をいたしましたところ、たくさんのご寄付をいただきました。深く感謝申し上げます。

なお、50周年記念寄付事業は2017(平成29)年3月まで行います。今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

【寄付者ご芳名】(個人・団体順 敬称略)

青山 映子、浅野 恵子、船谷 むつ子、小野 麗子、菊地 光子、木幡 文子、佐藤 礼子、柴田 順子、白井 卓二、菅井 幸子、鈴木 寿則、竹田 京子、中谷 和子、納庄 克子、服部 きみ、半田 芳吉、森田 郁子、森田 晃一、山口 富美子、渡辺 博子、渡部 裕子、仙台白百合女子大学後援会、仙台白百合女子大学・仙台白百合短期大学同窓会 (以上21名、2団体)

区 分	件 数	金 額 (円)
在学生保護者	9	180,000
一般篤志家	1	10,000
企業・団体	1	100,000
教職員	1	500,000
合 計	12	790,000

区 分	件 数	金 額 (円)
同窓会・白百合女子大学関係者	17	5,200,000
一般篤志家	1	10,000
企業・団体	1	1,000,000
教職員	5	50,000
合 計	24	6,260,000

寄付金担当(庶務課)
 電話 022-372-3254 FAX 022-375-4343
 E-mail shomu@sendai-shirayuri.ac.jp

2017(平成29)年度 仙台白百合女子大学 学生募集要項

【一般入試 (A日程)】

●出願期間および試験日等

出願期間	試験日	合格発表日
1月6日(金)～1月27日(金) 当日消印有効	2月5日(日)	2月10日(金)

●試験科目

人間発達学科、健康栄養学科を受験する方は、選択科目において本学科目とセンター試験利用科目の中から1科目のみ選択することができます。
出願時にどの科目で受験するかを選択してください。
<本学科目および大学入試センター利用科目>

学科・専攻	教科	試験科目	
人間発達学科 子ども発達専攻	国語	国語総合(ただし古文・漢文を除く)	本学科目必須
	外国語	英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、英語表現Iの内容を含む)	本学科目必須
	選択科目 (本学科目または大学入試センター試験科目から1科目選択)	世界史B、日本史B、政治・経済、数学I、化学基礎・生物基礎 世界史B、日本史B、政治・経済、数学I、化学基礎・生物基礎、化学、生物	本学科目 大学入試センター試験利用科目(基礎系は2科目で1科目分)
心理福祉学科	国語	国語総合(ただし古文・漢文を除く)	本学科目必須
	外国語	英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、英語表現Iの内容を含む)	本学科目必須
健康栄養学科 管理栄養専攻	国語	国語総合(ただし古文・漢文を除く)	本学科目必須
	外国語	英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、英語表現Iの内容を含む)	本学科目必須
	選択科目 (本学科目または大学入試センター試験科目から1科目選択)	化学基礎・生物基礎 化学基礎・生物基礎、化学、生物	本学科目 大学入試センター試験利用科目(基礎系は2科目で1科目分)
グローバル・スタディーズ学科	国語	国語総合(ただし古文・漢文を除く)	本学科目必須
	外国語	英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、英語表現Iの内容を含む)	本学科目必須

●試験場

- ①本学会場(仙台市東区本町6番1号)
- ②盛岡会場【ホテル東日本】(盛岡市大通3丁目3-18)
- ③鶴岡会場【庄内産業振興センターマリカ東館】(鶴岡市末広町3-1)
- ④秋田会場【秋田県総合保健センター】(秋田市千秋久保町6-6)
- ⑤新潟会場【コープシティ花園ガレツホール】(新潟市中央区花園1-2-2)

【大学入試センター試験利用入試 (A日程・B日程・C日程)】

●出願期間および試験日等

	出願期間	試験日	合格発表日
A日程	1月6日(金)～1月30日(月) 当日消印有効	大学入試センター試験日 1月14日(土)・15日(日)	2月10日(金)
B日程	2月10日(金)～2月22日(水) 当日消印有効		3月9日(木)
C日程	3月6日(月)～3月15日(水) 当日消印有効		3月24日(金)

●指定教科・科目

*大学入試センター試験利用入試A日程・B日程・C日程ともに共通です。

学科・専攻	教科	試験科目	
人間発達学科 子ども発達専攻	国語	『国語』(近代以降の文章)	必須 1科目選択
	外国語	『英語』(リスニングテストを除く)『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』	
	地理歴史	『世界史B』『日本史B』『地理B』	
	公民	『現代社会』『倫理』『政治・経済』『倫理、政治・経済』	
	数学	『数学I』『数学・数学A』『数学II』	
心理福祉学科	国語	『国語』(近代以降の文章)	必須
	外国語	『英語』(リスニングテストを除く)	
	地理歴史	『世界史A』『世界史B』『日本史A』『日本史B』『地理A』『地理B』	
	公民	『現代社会』『倫理』『政治・経済』『倫理、政治・経済』	
	数学	『数学I』『数学・数学A』『数学II』	
健康栄養学科 管理栄養専攻	国語	『国語』(近代以降の文章)	必須
	外国語	『英語』(リスニングテストを除く)	
	理科	『物理基礎』『化学基礎』『生物基礎』『地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	
	外国語	『英語』(リスニングテストを除く)	
	国語	『国語』(近代以降の文章)	
グローバル・スタディーズ学科	国語	『国語』(近代以降の文章)	必須
	地理歴史	『世界史A』『世界史B』『日本史A』『日本史B』『地理A』『地理B』	
	公民	『現代社会』『倫理』『政治・経済』『倫理、政治・経済』	
	数学	『数学I』『数学・数学A』『数学II』『簿記・会計』『情報関係基礎』	
	理科	『物理基礎』『化学基礎』『生物基礎』『地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	

注1. 配点は各教科とも100点満点(200点の科目は100点満点に換算します)

注2. 選択科目では、本学指定の受験科目のうち高得点の科目を合否判定に使用します。

問い合わせ先 仙台白百合女子大学 入試広報課 TEL: 022-374-5014(直通) E-mail: nyushi@sendai-shirayuri.ac.jp

●ご協力ありがとうございました●

仙台白百合学園

〒981-3205 仙台市東区紫山1丁目2番1号
TEL: 022-777-5777

URL <http://sendaishirayuri.net/>

パンフレットをご希望の方はお気軽にご連絡下さい

みやぎインターカレッジコープ

仙台白百合女子大店

TEL: 022-771-2391

編集後記

■最近になって気づいたことですが、本学の近辺は、今なお自然の恵みが溢れているようです。とりわけ3号館と図書館の裏山には、栗の木が自生しています。丁度、ウツようすの敷いてある図書館入口まで、栗の実がころころ転がっているのを目にした時、実にほのぼのしい感じを受けました。今年のフォト・コンテスト(白百合祭)では、キャンパスの四季折々の姿を、様々な角度から撮影してくれた80件の作品応募があり、このキャンパスをこれほどまでに愛でて下さった方々の感性には驚きを隠せません。本学は、今年、50年の節目を迎えることになりましたが、この豊かな自然の恵みは、これからも永遠に続いてくれることと思います。(砂澤健治)

Thanks!